

1. 略歴

1987年4月	東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
1991年3月	東京大学文学部中国語中国文学専修課程卒業
1991年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程中国語中国文学専攻入学
1993年3月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程中国語中国文学専攻修了
1993年4月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学
1993年9月	北京大学中文系留学（高級進修生として）（1994年7月まで）
1997年1月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程中国語中国文学専攻修了
1997年1月	博士（文学）学位取得
1997年4月	明治大学政治経済学部 専任講師
2002年4月	明治大学政治経済学部 助教授
2007年4月	明治大学政治経済学部 准教授
2010年4月	明治大学政治経済学部 教授
2013年4月	一橋大学大学院言語社会研究科 教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 単著

『上海モダニズム』（中国文庫／東方書店発売、2012年4月17日、全294ページ）

(2) 著書〔編著〕

『竹内好セレクション』Ⅱ「アジアへの／からのまなざし」（丸川哲史と共編、日本経済評論社、2006年12月5日）

『新聞でみる戦時上海の文化総覧—「大陸新報」文芸文化記事細目』上・下（大橋毅彦、竹松良明、趙夢雲、山崎眞紀子、木田隆文、関根真保、松本陽子と共編、ゆまに書房、2012年5月25日）

『当中国深入世界—東亜視角下的「中国崛起」』（香港：亜際書院、2016年4月、全237ページ）

(3) 論文

「メディア空間上海—『子夜』を読むこと—」（『東洋文化』74号、1994年3月24日、pp.87-112）

「すべてがなくなった—穆時英の「記憶」—」（『中国哲学研究』第9号、1995年7月31日、pp.1-37）

「瞿秋白言語理論小考—コミュニケーション論の視角から—」（『中国—社会と文化』第11号、1996年6月25日、pp.259-277）

「『上海事変』の影—茅盾「林家舗子」の方法」（『明治大学教養論集』通巻317号、1999年1月30日、pp.103-134）

「余計なことば—瞿秋白『多余的話』における「語ること」と「演じること」—」（『中国哲学研究』第13号、1999年12月14日、pp.72-110）

「異郷日本の茅盾と「謎」」（『アジア遊学』第十三号、勉誠出版、2000年2月20日、pp.54-66）

「『公論』の可能性—抗戦前夜上海における〈文学〉の位相—」（『上海—重層するネットワーク』、汲古書院、2000年3月31日、pp.305-332）

「ことばたちの星座—戴望舒の日中戦争—」（『文学』2002年1,2月号、岩波書店、2002年1月29日、pp.58-71）

「裏切りの政治学—中国モダニスト穆時英の選択—」（『モダニズムの越境』Ⅱ「権力／記憶」、人文書院、2002年2月28日、pp.52-71）

「上海都市大衆文化と「民族」の問題」（『明治大学人文科学研究科紀要』第52冊、2003年3月、pp.212-226）

「竹内好的中国観」（中文）（『二十一世紀』第83期、2004年6月、香港中文大学、pp.74-84）（本人による日本語訳「竹内好の中国観」、『アジア太平洋研究』No31、成蹊大学アジア太平洋センター、2006年10月、pp.3-16）

「『対日文化協力者』の声—陶晶孫を中心として—」（『戦時上海』、研文出版、2005年4月5日、pp.304-329）

「竹内好と『魯迅』」（『アジア学への誘い—国際地域の社会科学Ⅲ』、御茶の水書房、2008年3月31日、pp.249-272）

「日中戦争下の「純粹詩」—路易士の詩と詩論—」（『明治大学教養論集』通巻450号、2010年1月31日、pp.39-67）

「胡風文芸思想と『七月』の実践」（『野草』第87号、中国文芸研究会、2011年2月1日、pp.33-50）

- 「1930年代中国左翼文芸思想与現代主義」(中文)(王中忱・林少陽編『重審現代主義—東亜視角或漢字圈的提問』、北京：清華大学出版社、2013年9月、pp.237-258)
- 「民族与啓蒙：在民族形式討論中的胡風」(石井剛主編『“心”与 Nation：反思東亜地区的現代經驗』、UTCPC (The University of Tokyo Center for Philosophy)、2015年、pp.41-65)
- 「日本占領下上海文化の「グレーゾーン」をどう考えるか」(『史潮』第78号、歴史学会、2015年12月、pp.25-43)
- 「如何形成“亜洲主義”——試読竹内好《作為方法的亜洲》与《亜洲主義的展望》」(『亜洲思想運動報告：人間思想(簡体字版)第4輯』、台北：人間出版、2016年4月、pp.210-228)
- 「钻研文化、赢得尊严：吕途“新工人”论述引发的思考」(『熱風學術網刊』総第2期、2016年6月15日、pp.19-31)
- 「Literary Activities among the "Educated Youth": Background on Bei dao's Waves」(Frontiers of Literary Studies in China, Vol.11 No.3, 2017.9, pp.462-487)
- 「中華人民共和国建国前後の茅盾」(『越境する中国文学—新たな冒険を求めて』、東方書店、2018年2月20日、pp.165-188)

(4) 書評・短文

- 「現代中国主要著作・映画ガイドマップ」(ブックガイド・大槻幸代・小林清・松原健太郎と分担)(『ユリイカ』第21巻第13号、青土社、1989年10月1日、pp.266-274)
- 「魯迅研究書」(ブックガイド・清水賢一郎、大槻幸代と分担)(『しにか』vol.2no.9、大修館書店、1991年9月1日、pp.48-51)
- 「若い監督たちの試み」(中国映画の紹介)(『アジア読本・中国』、河出書房新社、1995年4月25日、pp.238-244)
- 「一九九六年の茅盾—茅盾生誕百周年国際學術討論會参加記—」(短文・学会報告)(『季刊中国』47、1996年12月1日、pp.13-22)
- 「茅盾—民国期の上海文壇」(短文)(『上海人物誌』、東方書店、1997年5月30日、pp.186-195)
- 「茅盾—異郷日本で見た(虹)」(短文)(『しにか』vol.9no.12、大修館書店、1998年12月、pp.100-105)
- 「上海モダニティから植民地性へ」(研究動向)(『朱夏』第16号、せらび書房、2001年12月15日、pp.65-71)
- 「日本謀求 “問題化” 的困難」(短文)(『開放時代』2002年1期、広州市社会科学院、pp.30-31)
- 『上海職業さまざま』(リード文「上海文化と大衆消費社会」「さまざまなサービス業」「雑業・裏社会」、および「ダンサー」を担当)(勉誠出版、2002年8月1日、p.13、p.125、pp.149-151、p.157)
- 「中国—近代の歩みを問い直す」(短文)(『歴史認識』論争、作品社、2002年10月15日、pp.193-196)
- 「中国現代文学史はいかに「書き換え」られたか」(研究動向)(東洋文化研究所ホームページ「アジア情報ゲートウェイ」<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/html/asw.html>、2003年12月1日)
- 「中国認識の試練」(短文・研究手帖)(『現代思想』第34巻第4号、青土社、2006年3月、p.246)
- 「「中国革命とアジア論」に寄せて」(解題)(『ポスト<東アジア>』、作品社、2006年3月10日、pp.37-41)
- 「日中一〇〇年史 二つの近代を問い直す」(書評・丸川哲史著)(『軍縮地球市民』第5号、2006年7月1日、pp.246-247)
- 「評《漢字圏の近代：語言与国家》」(書評)(『中国文哲研究通訊』第16巻第3期、2006年9月、pp.159-164)
- 「上海オーケストラ物語」(書評・榎本泰子著)(『近きに在りて』第50号、2006年12月20日、pp.144-146)
- 「思想空間としての現代中国」(書評・汪暉著)(『軍縮地球市民』第7号、2007年1月18日、pp.230-231)
- 「『良友』と中国新文学」(『アジア遊学』no.103、勉誠出版、2007年9月30日、pp.74-79)
- 「竹内好 “国民文学論” 与中国人民文学的問題」(『新文学』第7輯、大象出版社、2007年11月、pp.64-67)
- 「山田敬三著 魯迅 自覚なき実存」(書評)(『週刊読書人』2009年1月16日、5面)
- 「丸尾常喜先生から学んだこと」(追悼)(『野草』第83号、2009年2月1日、pp.11-15)
- 「小山三郎編著 台湾映画」(書評)(『週刊読書人』2009年3月20日、8面)
- 「「文」と「近代」を問いなおす 林少陽『「修辭」という思想』」(書評)(『東方』第349号、2010年3月5日、pp.26-29)
- 「座談会 海闊天空、説古道今：中国現代文学をめぐる漫談」(尾崎文昭・木山英雄・鈴木将久・松永正義・坂井洋史による座談会)(『言語社会』第4号、2010年3月、pp.9-41)
- 「渡邊一民『武田泰淳と竹内好』」(書評)(『図書新聞』2965号、2010年5月8日、3面)
- 「丸川哲史著『魯迅と毛沢東』、温鉄軍著『中国にとって、農業・農村問題とは何か?』の二著を読む」(書評)(『図書新聞』2978号、2010年8月14日、1面)
- 「書評 工藤貴正『中国語圏における厨川白村現象』」(書評)(『中国文芸研究会会報』第348号、2010年10月31日、pp.7-10)

- 「魯迅」(人物コラム) (『東アジア近現代通史第四巻：社会主義とナショナリズム』、岩波書店、2011年3月、pp.40-41)
- 「11年下半期読書アンケート」(『図書新聞』3043号、2011年12月24日、3面)
- 「五七体制的啓示」(錢理群著『毛沢東時代和後毛沢東時代』の書評) (『臺灣社會研究季刊』第86期、2012年3月、pp.253-266)
- 「錢理群《毛沢東時代和後毛沢東時代》〈譯者導讀〉」(訳者あとがきの中国語訳) (『人間思想』第2期、2013年1月、pp.268-276)
- 「現代中国認識のより一層の深化のために」(『毛沢東と中国』訳者座談会、丸川哲史・鈴木将久・羽根次郎・阿部幹雄) (『図書新聞』2013年1月26日、1-2面)
- 「「潜在創作」とは何か」(『いすみあ 明治大学教養デザイン研究科紀要』5、2013年3月31日、pp.19-25)
- 「浅析魯迅与瞿秋白有關翻譯的討論」(中文) (『河南師範大学学报』2013年第5期、2013年9月10日、pp.109-111)
- 「個人的な心情に寄り添う 史鉄生著 記憶と印象」(書評) (『週刊読書人』2013年11月22日、5面)
- 「東アジアの思想的連帯を求めて」(丸川哲史・鈴木将久対談) (『週刊読書人』2014年2月7日、1-2面)
- 「新たに魯迅を解放する」(汪暉・丸川哲史・鈴木将久鼎談) (『図書新聞』2014年2月22日、1-2面)
- 「忘れられた日本文学研究者 鄒双双「文化漢奸」と呼ばれた男」(書評) (『週刊読書人』2014年6月27日、4面)
- 「書評 丸川哲史著『思想課題としての現代中国 革命・帝国・党』」(書評) (『中国研究月報』Vol.68 No.10、2014年10月25日、pp.38-40)
- 「書評 小谷一郎著『一九三〇年代中国人日本留学生文学・芸術活動史』(汲古書院、2010年)・『一九三〇年代後半中国人日本留学生文学・芸術活動史』(汲古書院、2010年)」(『大学史紀要』第20号、明治大学史資料センター、2015年3月30日、pp.110-119)
- 「日本人の「異文化体験」の意味を問い直す 和田博文・黄翠娥編『〈異郷〉としての大連・上海・台北』」(書評) (『週刊読書人』2015年6月5日、5面)
- 「中国社会の独自性に迫る 丸川哲史著『中国ナショナリズム』」(書評) (『週刊読書人』2015年10月16日、4面)
- 「書評 城山拓也『中国モダニズムの世界—一九二〇、三〇年代上海のリアリティ』」(『現代中国』第89号、2015年9月30日、pp.112-116)
- 「一橋のなかの中国と中国語」(『言語社会』第10号、2016年3月、pp.30-32)
- 「如何理解和描述中国社会主義的經驗」(『亜洲思想運動報告：人間思想(簡体字版)第4輯』、台北：人間出版、2016年4月、pp.197-199)
- 「當我們直面在危機重重中崛起的中國大陸」(賀照田『当社会主義遭遇危機』、台北：人間出版社、2016年8月、序文、pp.5-24)
- 「東アジアの実践的思想 白永瑞著『共生への道と核心現場』」(書評) (『図書新聞』2016年11月12日、8面)
- 「上海自然科学研究所と陶晶孫」(コラム) (堀井弘一郎・木田隆文編『戦時上海グレイゾーン』、勉誠出版、2017年2月10日、pp.143-144)
- 「為了理解中国革命」(『新与旧 理与時 情与勢：人間思想(簡体字版)第7輯』、台北：人間出版、2017年4月、pp.230-233)
- 「文学」(光田剛編『現代中国入門』、ちくま新書、筑摩書房、2017年5月10日、pp.74-94)
- 「中国特有のモダニティの多様なあり方を見出す 王徳威著『抑圧されたモダニティ』」(書評) (『週刊読書人』2017年8月25日、5面)
- 「人気作家とのとしての一面にとどまらない魅力を伝える 張愛玲著『中国が愛を知ったころ』」(書評) (『週刊読書人』2017年12月1日、5面)
- 「中国を理解するために」(『現代思想』第46巻第6号、2018年4月1日、pp.103-109)

(5) 翻訳

- 「若奥さまの家出」(張天翼著、原題：出走以後) (『笑いの共和国—中国ユーモア文学傑作選』、白水社、1992年6月25日、pp.39-62)
- 「中国における現代化(近代化)想像」(王曉明著) (『思想』No.914、岩波書店、2000年8月、pp.88-101)
- 「困惑と不安の中の模索—雑誌編集から見た中国知識界の現在」(賀照田著) (『現代思想』第29巻第4号、青土社、2001年3月、pp.68-81)
- 「中国学術思想界を制約するいくつかの問題」(賀照田著) (『現代思想』第31巻第4号、青土社、2003年4月、pp.181-195)

- 『竹内好という問い』(孫歌著、第3章、第4章、第5章の下訳を担当)(岩波書店、2005年5月、pp.115-281)
- 「靈魂は暗夜を漫遊する—灰娃の「文革」時期詩歌創作」(劉志榮著・抄訳)、『藍・BLUE』総第20期、2005年11月、pp.210-227)
- 「時代の要請と中国人文思想の再出発」(賀照田著)、『現代思想』第33巻第13号、青土社、2005年12月、pp.192-200)
- 「グローバリゼーションと中国農村：文化運動としての郷村建設」(温鉄軍インタビュー)、『前夜』第1期第6号、2006年1月、pp.60-80)
- 「中国革命とアジア論」(賀照田著)、『ポスト<東アジア>』、作品社、2006年3月10日、pp.30-36)
- 「現代史研究と現在の中国の思想と政治」(賀照田著)、『中国21』vol.30、2009年1月31日、pp.239-266)
- 「さよなら、イリハム—あるウイグル知識人の希望」(黄章晋著・抄訳)、『世界』第798号、岩波書店、2009年12月、pp.236-251)
- 『最後の審判を生き延びて 劉曉波文集』(劉曉波著、丸川哲史・及川淳子と共訳、評論3「文化と社会」、「詩」、「08憲章」、「序文」を担当、丸川哲史と共著で訳者解説「劉曉波にとっての「民主」、その他」執筆)(岩波書店、2011年2月25日、pp.v-xi、pp.151-256、pp.265-273、pp.303-347、pp.381-402)
- 「中国民主運動の歴史」(錢理群著)、『情況』2011年6・7月号、情況出版、2011年6月、pp.204-215)
- 「釣魚島」の背後の中国の思想的分岐(張寧著)、『現代思想』2012年12月号、青土社、2012年11月26日、pp.104-121)
- 「戦後啓蒙における民主主義認識」(孫歌著)、『シリーズ戦後日本社会の歴史3 社会を問う人びと』、岩波書店、2012年12月、pp.24-52)
- 『毛沢東と中国 ある知識人による中華人民共和国史』上・下(錢理群著、阿部幹雄・羽根次郎・丸川哲史と共訳、全体の編集を担当し、日本語版への序・まえがき・第四章・第五章・第六章・第七章・第十四章の翻訳を担当、「訳者あとがき」執筆)(青土社、2012年12月27日、上巻全699ページ、下巻全576ページ)
- 「『ノーマル・パラノイア』と現代社会」(孫歌著)、『世界』2013年4月号、岩波書店、2013年4月1日、pp.153-164)
- 『中国が世界に深く入りはじめたとき』(賀照田著、全体の編集を担当し、「訳者まえがき」「訳者あとがき」執筆、第三章・作者後記を翻訳、第六章を阿部幹雄と共訳、第一章・第二章・第四章・第七章は既訳を修正)(青土社、2014年1月15日、全288ページ)
- 『中国メディアの現場は何を伝えようとしているか』(柴静著、河村昌子・杉村安幾子と共訳、全体の編集を担当し、柴静インタビュー、第一章、第七章、第九章、第十一章の翻訳を担当、「訳者まえがき」「訳者解説」執筆)(平凡社、2014年4月25日、全309ページ)
- 『誰も知らない香港現代思想史』(羅永生著、丸川哲史・羽根次郎と共編訳、全体を編集し、「はじめに」「主体性をもった本土性に向けて」の翻訳を担当)(共和国、2015年8月10日、全355ページ)
- 『日中の120年 文芸・評論作品選1 共和の夢 膨張の野望』(編集協力)(岩波書店、2016年3月10日、全307ページ)
- 『日中の120年 文芸・評論作品選2 敵か友か』(編集協力、巴金の翻訳担当)(岩波書店、2016年4月12日、全315ページ)
- 『日中の120年 文芸・評論作品選3 侮中と抗日』(編集協力、巴金・郁達夫・謝冰瑩・茅盾・老舍の翻訳担当)(岩波書店、2016年5月13日、全315ページ)
- 『日中の120年 文芸・評論作品選4 断交と連帯』(編集協力、巴金の翻訳担当)(岩波書店、2016年6月11日、全327ページ)
- 『日中の120年 文芸・評論作品選5 蜜月と軋み』(編集協力)(岩波書店、2016年7月28日、全346ページ)

(6) 学会発表・海外講演

- 「上海：媒介と語境」(茅盾生誕百周年国際学術討論会、北京、1996年7月8日)
- 「雑誌『現代』創刊の背景 — 一九三〇年代初頭のメディア編成」(日本中国学会第48回大会、横浜：神奈川大学、1996年10月12日)
- 「一九二八年茅盾在東京」(東方学会第44回国際東方学者会議、東京、1999年6月5日)
- 「中国近代媒体的發展与国民文学的成立」(韓国中国学会 第21次中国学国際学術大会、ソウル：ソウル大学校、2001年8月25日)
- 「上海都市大衆文化与民族形式」(上海史青年学者国際研討会、上海：国家会計学院、2002年9月5日)
- 「竹内好的中國観」(日中若手歴史研究者会議、杭州：浙江大学、2004年3月19日)
- 「竹内好対一九五〇年代中国文学的評価」(「全球化与東亞現代性」夏期研討班 上海：上海大学、2005年6月25日)

- 「竹内好“国民文学論”与中国人民文学的問題」(魯迅与竹内好國際學術研討会 上海:上海大学、2005年12月25日)
- 「竹内好与『魯迅』」(魯迅与当代中国文化工作坊 上海:華東師範大学、2008年5月28日)
- 「竹内好与『魯迅』」(亞洲的政治記憶與歷史敘事國際研討會 台湾:彰化師範大学、2009年11月29日)
- 「胡风文艺理论的形成及其問題」(亞洲文化論壇 北京:中国社会科学院文学研究所、2011年8月23日)
- 「胡風文藝理論初探」(2011 中文知識生產與亞洲社會轉型 台湾:彰化師範大学 2011年10月29日)
- 「浅析魯迅与瞿秋白有关翻译的讨论」(「新メディアと近代上海」國際シンポジウム 上海:上海師範大学 2012年2月25日)
- 「錢理群《毛澤東時代和後毛澤東時代》日文版《譯者解説》」(歴史敘述與文學—以中國當代文學史的研究與書寫為討論中心 香港:嶺南大学 2012年6月9日)
- 「1950年代日本如何接受中国文学?」(亞洲文学文化研究:历史与现状—战后初期东亚史的文学、思想、历史意涵 北京:中国社会科学院文学研究所 2012年7月26日)
- 「竹内好与中国」(思勉人文講座 113 上海:華東師範大学 2012年9月17日)
- 「ポスト文革時代における「政治と文学」—「胡風名誉回復」を文学史的に考える」(現代中国学会 特別分科会、東京:一橋大学、2012年10月21日)
- 「民族与啓蒙:在民族形式討論中的胡風」(“心”与 Nation:反思東亞地区的現代經驗、東京:東京大学駒場キャンパス、2013年11月16日)
- 「近代中国における革命と言語」(《書くこと》と権力の生成、東京:一橋大学大学院言語社会研究科、2013年12月21日)
- 「1980年代中国モダニズムの源流—北島『波動』から」(“現場”の挑戦と文学の営み、東京:東京大学駒場キャンパス、2014年6月28日)
- 「竹内好与中国」(“东亚危机下的国家感觉与国际感觉”、上海:金沢工芸館、2014年7月6日)
- 「竹内好における翻訳の問題」(文字、言語、権力、ソウル:延世大学校、2014年11月21日)
- 「舒蕪“検討”的前前後後」(新人・土地・国家:再论中华人民共和国成立的历史、文化、思想意涵、北京:中国社会科学院文学研究所、2015年4月25日)
- 「鑽研文化、贏得尊嚴:呂途“新工人”論述引發的思考」(東亞視角下的中国“新工人”、上海:金沢工芸館、2015年7月4日)
- 「“天下体系”的語境」(東亞現實中的“天下体系”、上海:金沢工芸館、2016年7月3日)
- 「抗日戰爭時期茅盾現實主義文學的發展」(第十期全國茅盾研究會年會、上海:華東師範大学、2016年8月6日)
- 「路翎的朝鮮戰爭」(中国社会主义改造の歴史、社会、文化、生活意涵、北京:中国社会科学院文学研究所、2017年4月23日)
- 「苦悩・絶望・希望」(再論“当中国深入世界”、上海:金沢工芸社、2017年8月5日)
- 「竹内好思想中的“中国文学”」(2017 西江 Transcultural China 國際學術會議、ソウル:西江大学、2017年12月21日)

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

放送大学 (1994年10月～1996年3月)

東京女子大学文理学部 (1995年4月～1997年3月、1998年4月～2004年3月、2005年4月～2009年3月)

武蔵大学人文学部 (1995年4月～1997年3月)、 埼玉大学 (1996年4月～1997年3月)

國學院大學 (1996年4月～1997年3月)、 駒澤大学 (1996年4月～1997年3月)

立教大学 (1997年4月～2000年3月)、 東京大学教養学部 (2002年4月～2004年3月、2017年4月～2017年9月)

神戸大学文学部 (2005年4月～2005年9月)、 早稲田大学文学学術院 (2010年4月～2011年3月)

明治大学政治経済学部 (2013年4月～2014年3月)、 三重大学人文学部 (2014年10月～2015年3月)

文教大学文学部 (2017年4月～2017年9月)

一橋大学 (2018年4月～現在)

(2) 学会

中国社会文化学会理事 (2002年～現在、2012年から学会誌編集担当)